



文部科学省 卓越大学院プログラム
WISE Program

革新医療創生CHIBA卓越大学院

iMeC

WISE



NEWS LETTER Vol.4

卓越大学院プログラム

プログラムについて

このプログラムは、革新医療創生を担う卓越した『知のプロフェッショナル』を養成することを目指しています。医学をはじめ、9専攻の修士課程と、先端医学薬学専攻の4年博士課程を一貫した6年制の新しい大学院教育プログラムです。革新的な医療を創生するイノベーターとして、新たな医学の知の創出や社会実装に貢献できる能力を習得すべく、既存の枠を越えて組織されたクラスター制CHIBA教育システムや特別な教育カリキュラムによって、高度な専門性と俯瞰力、独創力、チャレンジ精神などを培います。

卓越教養特論



卓越教養特論では定期的に著名な先生方にご講演いただいております。各分野の第一人者とも言える先生方のお話を聞ける貴重な機会であり、自分の研究にも熱が入ります。

革新医療創生演習



革新医療創生演習では各々が興味のある分野の研究室を訪問し、それぞれの研究室で専門的な知見を得ました。同じ大学内でも様々な研究がされており、思わぬところで自分の研究と繋がってくることもあります。

リトリート



リトリートではグループごとに英語でのビジネスプラン発表会が行われたり、各個人の研究についての発表が行われました。

実践英語



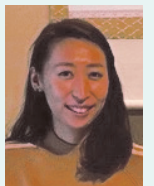
実践英語では会話やディスカッションを交えながら、プレゼンテーションの手法についても学びました。

中谷 一真さん
卓越教養特論担当



卓越教養特論を担当する上で最も魅力的な点は、自身の尊敬する先生方をお呼びし、直接対話できることです。招待される先生方は著名であり、研究成果はインターネットで容易に入手できますが、対面での対話によって得られる情報や洞察は、オンライン上では得られないものがありました。彼らと直接コミュニケーションをとり近い立場からの視点を得られることは、この役職の特権と言えます。特に、先生方の苦労話やキャリア選択における意思決定プロセスについて聞いたことは、私にとって非常に貴重な財産となりました。

辻 香織さん
リトリート担当



本年のビジネスプラン発表では各チーム自由な発想をもとに医療現場だけではなく環境問題にもアプローチした幅広い内容となり、新たなビジネスの可能性と研究を組み合わせ、各チームの強みが最大に活かされた創造性溢れる発表となりました。特別講師として株式会社 Xcoo (テンクー) の西村先生にこれまでのご経験やゲノム医療分野におけるビジネスなど大変興味深いご講演をいただきました。研究発表では他分野で切磋琢磨する学生たちの発表がとても良い刺激となり、先生との活発な議論を通じてこれまでの研究をさらに発展させる貴重な機会になりました。最後に、本リトリートの開催にご尽力いただいた関係者の皆様、参加者の皆様に深く感謝申し上げます。

4期生

修士課程 6名、博士課程11名の計17名で活動しています

修士課程



武藤 大将

修士・博士一貫課程
千葉県がんセンター研究所
進化腫瘍学研究室

胆管がんにおけるNCYMによるオートファジー活性化機構の解明



佐野 真澄

修士・博士一貫課程
薬学研究院
薬効薬理学研究室

ミクログリアの活性化に対するセラミドキナーゼの関与



伊藤 敦之

修士・博士一貫課程
融合理工学府
先進理化学専攻
化学コース

クライオ電子顕微鏡を用いた胆汁酸排泄トランスポーター(BSEP)の阻害剤複合体の立体構造解析



猪飼 朋音

修士・博士一貫課程
真菌医学研究センター
感染免疫分野

腸内微生物による濾胞性ヘルパーT細胞誘導・制御機構の解明



佐々 晴基

修士・博士一貫課程
千葉大学医学研究院
イノベーション医学領域

食物アレルギーの治療法開発を目的としたマスト細胞不均質性の解明



森 大地

修士・博士一貫課程
真菌医学研究センター
感染免疫分野

Candida albicans による腸管上皮細胞のフコシル化と炎症性腸疾患への関与

博士課程



張 瓊元

博士4年課程
真菌医学研究センター
感染免疫分野

IBD発症メカニズム解明に向けた恒常性Th17細胞と病原性Th17細胞の遺伝子的特徴の解明



我妻 叶悟

博士4年課程
人工知能(AI)医学

統計解析と人工知能技術による、新型コロナウイルス感染症と糖尿病の相互作用に関する横断的多施設診療情報解析



Joceline Theda Kadarman

博士4年課程
医学薬学府
形成・美容外科学

ケロイドの再発を防ぐため、病理学的特徴に基づくケロイドの新たな分類法を開発する



鈴木 優佑

博士4年課程
真菌医学研究センター
感染免疫分野

抗ウイルス自然免疫応答におけるUSP10の機能解析



岩田 秀平

博士4年課程
整形外科学

プロテオゲノミクスを用いた悪性骨軟部腫瘍の新たな診断治療標的の探索



富田 嗣子

博士4年課程
呼吸器内科学
免疫発生学

肺神経内分泌細胞の内部多様性と小細胞肺癌の新たな治療パラダイムに向けた分子基盤の解析



池田 優

博士4年課程
千葉大学医学部附属病院
救急集中治療医学

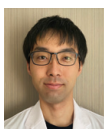
機械学習を用いた重症患者における血糖予測モデルの開発と社会実装への展開



張 衆為

博士4年課程
医学研究院 イノベーション医学
千葉大学 未来粘膜炎クエン研究開発シナジー拠点

臓器ネットワークによる粘膜保護のメカニズム解明



北村 昂己

博士4年課程
先端医学薬学専攻
整形外科学

AIを用いた脊椎損傷後の膀胱直腸障害の予後予測モデルの開発



柿沼 康平

博士4年課程
免疫発生学

炎症性肺疾患における糖タンパク質セルグリンの役割の解明



Lineth Mercado

博士4年課程
千葉大学大学院医学研究院
代謝生理学

2型糖尿病の新しい治療法の探索に向けて、膵臓ベータ細胞におけるベータ細胞量調節のメカニズムを研究します

**根本 祐宗さん 所属：免疫発生学（医学領域） 令和5年9月修了**

卓越大学院に入学して感じる一番のメリットは、専門分野に関らず、幅広い知見が得られることだと思います。サブ専攻により、全く異なる研究手法を勉強したこと、授業も歴史や、人文、工学等の先端の話が聴講でき、大学を卒業してから7年の時を経ての大学院入学だったこともあり、知識の幅が広がることに大きな喜びがありました。自由度の高いプログラムや課題もありましたので、学生に求められることも多くなりますが、課題をクリアする上での金銭面でのサポートもあり、本当に充実した時間だったと思います。非常に練られたプログラムを作成、維持、そして修了までサポートくださった皆様に感謝いたします。

餌取 慶史さん 所属：アレルギー・臨床免疫学（医学領域） 令和6年3月修了

実臨床業務と実験の並行であったという間の院生生活でした。所属研究室外でどのような研究が行われているのか、卓越大学院プログラムに所属することで幅広い分野に触れる機会が非常に多く設けられている点がやはり一番のメリットと感じています。今後のキャリアで海外進出に少しでも興味・関心があるという学生には適したプログラムと思います。最後に、大学院生活を通して、ご指導ご鞭撻を頂きました各関係者の先生方、大学院スタッフの皆様にこの場をお借りして御礼申し上げます。

菱谷 崇寿さん 所属：整形外科学（医学領域） 令和6年3月修了

卓越大学院ならではの卓越教養特論や革新医療創生実習などの活動を通して、医学領域を超えた学びがありました。特に、Virtual Reality (VR) を活用したりハビリのビジネスプラン作成や、医療現場でVRを実際に使用している企業を訪問する実習は非常に印象的でした。修了まで、指導教員の先生方や卓越大学院のスタッフ、そして同期や後輩の皆さんのサポートが大きな助けとなりました。この場を借りて心から感謝申し上げます。また、卓越大学院プログラムを通じてそのような多くの素晴らしい出会いがあり、私にとって貴重な財産となりました。

佐々木 篤志さん 所属：呼吸器内科学（医学領域） 令和6年3月修了

私は呼吸器内科学に所属しながら、免疫発生学教室で研究に努めてまいりました。サブ専攻の制度があることで主専攻の枠組みにとらわれず、他の学生とも協力しながら他分野の研究も行ったのは貴重な経験でした。卓越大学院に所属している学生は志が高く、非常に刺激を受けた4年間でした。卓越大学院修了に際して、この場をお借りして関係者の先生方や学務係、プログラム担当者に感謝申し上げます。

石野 貴雅さん 所属：消化器内科学（医学領域） 令和6年3月修了

私は消化器内科医として4年間臨床で過ごした後、卓越大学院1期生として入学しました。自身の研究課題に従事して深い視点を持つだけでなく、多角的な視野の学びに触れることで、社会の中での研究の意義をまた俯瞰する機会に恵まれたと思います。岡山へ国内留学を行い、多施設と関わりながら様々な研究に携わるだけでなく、論文作成や学会発表を行えたのは卓越大学院の支援の賜物で、楽ではないものの意義深い日々を過ごせたと感じています。大学院修了に際して、関わってくださった先生方やプログラム担当者の方々、家族に心から感謝申し上げます。

鈴木 翔大さん 所属：生化学（薬学領域） 令和6年3月修了

修士2年から4年間、本プログラムに所属して多くの貴重な経験をさせていただきました。卓越教養特論の企画やサブ専攻などを通して、医学・薬学に限らず幅広いバックグラウンドの先生や学生方と議論できたことで、研究者ネットワークの構築に繋がっただけでなく、多面的な視野を持って研究する重要性や面白さに気づくことができました。研究は多くの困難を伴う活動でしたが、本プログラムを通して失敗から立ち上がる強さや難しい課題にチャレンジする楽しさを得ることができました。以上の経験は今後の研究者人生にとって大きな糧になると信じています。今までサポートしてくださった先生、学生、学務係の方々、有難うございました。